

①事業の基礎情報

事業名	情報発信パワーアップ事業		担当部・グループ名	企画部 総合政策グループ						
実施期間	平成 26 年度～平成 29 年度		担当 GL 氏名	野口 恒夫						
新規・継続の別	継続事業		電話番号(内線)	52-1111(内線 352)						
縦覧計画 (倉庫計画)体系	個別目標	(1)まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます	予算・事業上の 予 算 書 上 の 業 務 名	款	2款 総務費					
	こんなことに取り組みます	市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、市政運営やまちづくりに関する情報発信・情報交換を活発に行います。		項	1項 総務管理費					
				目	8目 広報広聴活動費					
	みんなで目指すまちづくり指標名	いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合		事業名	1 広報広聴事業					
現状値(H25)	79	実績値(H26)	83	実績値(H27)	82	実績値(H28)		目標値(H29)	85	(単位)%
			総合戦略	■該当する □該当しない						

②事業の概要

目的 (何をどうするために)	★市政運営やまちづくりに対する関心・理解、満足感・納得感を高める。		
	★まちへの愛着・誇りを高める。		
	★まちの目指す姿やまちづくりの課題等を知り、まちづくりに主体的に関わる市民を増やす。		
	★市政運営の透明性を高め、説明責任を果たす。		
対象(誰・何を対象に)	市民	対象の数量	46,373 人
最終目標 (最終的に何がどうなれば達成か)	☆行政は、様々な手法により、情報の受け手である市民を意識して、市政やまちづくりに関する情報発信・情報交換を積極的に行い、わかりやすく市政の姿等をお伝えしている。		
	☆市政を身近に感じる市民が増え、市政に対する関心・理解、満足感・納得感が高まっている。		
	☆まちへの愛着・誇りが高まり、まちのことを「自分事」として考える市民が増えている。		
	☆まちづくりの課題・目標が共有され、まちづくりに積極的に関わろうとする市民が増えている。		

③事業にかかる事業費概要

平成 27 年度 (当初予算額)		決算額		主な内容
事業費総額 (千円)		12,374	12,054	
財源内訳	一般財源	11,074	10,895	
	特定財源	国・県支出金	600	589
		その他	700	570
補助事業・単独事業の別		単独事業	単独事業	



▲市公式ホームページトップページ (リニューアル後)



④平成 27 年度の実施内容（目指す姿の実現に向けて、どんなことに取り組んできたのかを整理する）

	何を・どのように・どうした ※箇条書きで記載する	いつ(年月)	アウトプット
実施内容	◆ホームページのトップページリニューアルを行った。	H27.10	—
	◆若い世代をモデルに、“自分なりのまちの楽しみ方”をテーマとした新春特別号を発行した。	H28.1	13,500 部 発行
	◆市政情報を手軽に入手することができるように、広報 1/1 日号より「i 広報紙」の配信を開始した。	H28.1	登録者数 72 人
	◆広聴活動として「まちづくりトーク&トーク」を実施し、広報にその模様を掲載した。	H27.12 H28.3	実施回数 2 回
参画・協働・ 情報共有の工夫	★まちの魅力や市民の姿を「まちの話題」「撮っておきのたかはま」として毎号掲載。 ★フェイスブックで双方向型の情報共有を進め、ホームページのトップページから、月間行事カレンダーが見られるようにした。		
進捗状況	概ね予定通りに進行することができた。		
実施内容に 対する成果 (事業の自己評価)	☆市民活動の紹介記事により、身近な話題を提供して、まちへの愛着増進につなげている。 ☆フェイスブックにより、市民の反応が即時的に受け取れるようになっている。		

⑤課題と今後の取組みの方向性（平成 27 年度を振り返り、課題を抽出し、今後の取組みの考え方を整理する）

課題	今後の取組みの方向性
（1）紙面では新鮮な情報をコンパクトに伝える ・現在、文字数・ページ数ともに増加傾向にある。 ・また、長年定例化した記事をリフレッシュさせる時期も到来している。	・特集や重点記事は手厚く、定例記事はまとめ方を見直すなどメリハリのある冊子構成に取り組む。 ・所管を越えて一体的に紹介した方が効果的な内容は調整し、横断的な情報提供の場をつくる。
（2）広報・広聴を新たなつながりづくりのツールに ・多様な市民の声を拾うにあたり、教育現場や市民活動団体へのアプローチ経路は確立されてきたが、取材を通して若い世代や事業者など、あまり接触のなかった層へも接触していく必要がある。	・ターゲットを絞った広聴活動を展開する。 ・”市民”のカテゴリである事業者などにアプローチし、働き盛りの視点からの意見聴取を行う。
（3）情報発信のプラットフォームの強化 ・まちの魅力・強みの効果的な発信が重要な課題となっている。特にホームページはあらゆる媒体のプラットフォームとなり、情報の動きの要となることが必要である。	・市内外に向けた情報の出し方を総合的に考慮した上でトップページからスピーディーに欲しい情報が手に入るように工夫する。 ・即時性・話題性のある直近情報を出せる仕組み作り。

⑥課題解決に向けた平成 28 年度の具体的なアクション（案）

	何を・どのように・どうする ※箇条書きで記載する	いつまでに (年月)
計画(案)	◆ホームページの多言語化対応として翻訳機能を追加するとともに、リニューアルしたホームページの運用・検証を行う。	H28.6
	◆お知らせ型情報の簡素化・レイアウトの工夫など、紙面構成・掲載内容等の見直しを行う。	H28.6
	◆保健事業や事業者の地域活動などの機を捉え、個々との対話的に意見の聞き取りを行い、広報・広聴活動を通じた新たなつながりを構築する。	H29.3
参画・協働・ 情報共有の工夫	☆文字サイズ、色など広報誌面デザインにも市民意見の反映を行う。 ☆市民がわざわざ窓口に出向く回数を減らせるツールであることを意識して、各グループのホームページ掲載情報を見直す。 ☆フェイスブックを活用して事業の進捗や、新鮮な情報を提供する。	

特記事項